

ジャパンカップサイクルロードレース

日本最高峰のロードレース大会を競輪界もバックアップ！

毎年、栃木県宇都宮市で開催されるロードレースの祭典、ジャパンカップサイクルロードレース。今年で20周年を迎えたジャパン

カップは、1990年にアジアで初となる世界選手権がトラックは前橋、ロードは宇都宮で開催されたことをきっかけに、メモリアル大会として始まりました。当初から、海外のトップ選手が出場する大会としてファンから絶大な人気を誇りましたが、アジア最高位のワンデイレースとなった現在では、ツール・ド・フランスなどに出場しているチームや選手たちが多数参戦する日本屈指のロード

レース大会となっています。

レース観戦に訪れる観客も年々増え続け、コースとなる宇都宮市森林公園は人だかりで埋め尽くされるほど。まさに近年の自転車ブームやロードレース人気の高さを感じさせますが、その背景には海外のビッグレースで活躍する日本人選手の登場も大きな要因です。テレビで観ていた世界の強豪選手と互角に競い合う日本人選手の姿を目の当たりにすれば、ファンならずとも大興奮！また、ロードレースに先立って、昨年初めて開催された宇都宮駅前でのクリテリウムは

大きな話題となり、ビルや商業施設が建ち並ぶ大通りを選手たちが高速で駆け抜ける様子は圧巻です。昨年はこのクリテリウム観戦に3万人が詰めかけ、翌日のロードレースと合わせるとなんと10万人の観客を動員。競輪選手も今年は村上義弘、新田祐大、深谷知広の3選手がこのクリテリウムに出場しました。

競輪界はこのジャパンカップを補助事業という形で支援していますが、それだけでなく、地元・栃木支部の選手たちはレース中にゲストや報道関係者を乗せる車の運転など、大会運営にも様々な協力をしています。ジャパンカップとの関わりを詳しく伺った栃木支部・福田匡史支部長のインタビューは33ページに、そしてクリテリウムに出場した新田祐大選手のインタビューは34〜35ページに掲載されています。



雨模様の中、10月22日(土)に宇都宮駅前大通りで行われたクリテリウム。



今年のクリテリウムには村上義弘、新田祐大、深谷知広がロード選手の別府史之、阿部良之とともにペナルティチームを結成して出場。



今年には栃木支部の選手たちも勝負服に身を包んでハレットに参加。



本戦のロードレースはクリテリウムの翌日に宇都宮市森林公園で行われる。一番の観戦ポイントとなる古賀志山の頂上は、人一人！



海外の有名選手を間近で見られるのもジャパンカップの魅力。



赤いジャージは地元のプロロードチーム、宇都宮プリンスエン。地元チームの存在は地域をあげての応援を、ジャパンカップの盛り上げに役立っている。



JKAのブースには、競輪のPR、競輪補助事業紹介、トラック競技の展示物が掲示されており、多くのロードファンが立ち寄り、展示物を見学している。